

「クロノスとカイロス」

～時の流れに身をまかせて…はダメ！！～ II コリント 6 : 1 - 2

■ 時…

私達の人生で休むことはとても大切です。それは明日もう一度神様の目的に従って生きるためです。けれど、現代人の多くは立場、職場の雰囲気 etc …何かに流されています。そして一番怖いのは人生に流されるということです。これは私達の人生が受け身になっていきます。「どんなことが起きるのか…」「これから先の未来はどうなっているのか…」未知の世界です。クリスチャンの人生は未知の世界であってはいけません。たえず「摂理」です。神様は私達に運を与えたのではなく、神の計画に従って歩む者のためにカイロスという神様の大切なプレゼントを任されているのです。カイロスとは「時期」「その時」といった非常に断定した時のことをいいます。今日のみ言葉の中に「恵みの時」と書いてあるこの「時」がカイロスです。クロノスとは偶然秒が刻まれていって突然あらわれることを表す言葉です。神様はカイロスという大事な時を私達に任されました。サタンは私達に神様の時が訪れたその時にチャンスが受け取れなくなるように働いてきます。私達がイライラしている時に、ある人が私達に頼りたいという心が与えられたとします。これが神様の時です。そこで、もし私達がイライラしたまま歩んでいたら、その人が私達のところに来た時に私達の顔を見て「ああ、この人に相談しても無駄だ。」と思ってしまうのです。これが神様の時を逃すということです。もし、私達がその時に笑顔でいることができたら相談しに来たその人は私達を通して180度人生が変わっていたのです。

■ 神様の時を選んでいきますか…

人間的価値観、感情的な心の衝動が私達の中に入ってくると神様が「こうせよ！」と言われていても、「人がどう感じるか」とか「自分がこれを選んだら損じゃないか」という思いでいっぱいになり神様の声が聞こえなくなります。クリスチャンには必ずチャンスがやって来ます。そして、そのチャンスはいつもあります。ある人が私達に提案をしてきます。その時点でチャンスです。その時に私たちが正しい判断をするかしないかです。けれど、相手の態度によって私達の判断は変わってしまいますか？嫌な態度で言われたらその提案が正しくてもやりたくないという思いになってしまわないでしょうか。私達は自らがどう歩むべきかをいつも選ばなければなりません。どのような状況、相手であってもあきらめずに正しい判断をしていかなければなりません。

■ ザアカイ… (肋19:4-9)

ザアカイは日本語でいうと「きよし」という名前です。清い子です。けれど、ザアカイは当時ユダヤ人からは裏切り者のレッテルを貼られる「取税人」で、信じられるものはお金だけでした。失敗して、裏切って、人々から嫌われて…そんなザアカイにイエス様は「ザアカイ。」と優しく名前を呼び「おりておいで。今日はおまえの家に泊まることにしているから。」と声をかけられました。その一言でザアカイの人生が180度変わったのです。もし、イエス様が「ザアカイ！お前は取税人で悪いやつだ！お前の生き方は駄目だ！」と言われていたかどうかでしょう。ザアカイの人生は変わらなかったでしょう。私達も同じです。誰かの悪い行為、言い方、態

度を見た時に「あの人は駄目だな！」で終わったら何の意味もありません。イエス様はザアカイが何故そのような生き方になったのかを知っておられました。そしてザアカイが受け取ることのできる方法で語りかけられたのです。私達は「クリスチャン」すなわち「イエス様の人」です。私達もイエス様のようにその相手の奥を見つめ、その人が受け取れるように行動しなければなりません。

■ 1 もうつぶやかない

つぶやきは罪です。たとえ、家にある偶像を全部取り払い、神社にお祈りに行かなくなったとしてもつぶやいていたら同じです。つぶやきを聞いているのはサタンです。神様の目から見たら罪は同じです。大切なのはつぶやきたくなったら神様につぶやくということです。ダビデも神様にはつぶやいています。神様につぶやきを話すのなら、つぶやきで終わることはありません。最後は必ず神様に帰り、信仰の告白へ導かれていきます。

■ 2 人生から私は何を？ 人生が私に～ではない

与えられた人生から私が何をできるのかを考えなくてはなりません。人生が私に何かをするものではありません。「将来何が起るのか」「どんないいことや悪いことが待っているのか」「どうせ私にはいいことなんてない」…これは人生に流されているということです。人生は私達がつくるものです。私達はヒストリーメーカーです。ヒストリー（歴史）とはイエス様の生涯です。そのヒストリーを私たちがどう引き継ぐかなのです。イエス様も決断を許されていました。荒野でサタンに誘惑された時に石をパンに変えることもできたし、飛び降りて天使に助けをもらうことができました。イエス様は正しい決断を選んだのです。私達も、目の前に入ってきた現状、サタンの誘惑…その中で正しい決断を選ぶのです。私達の人生を変えることのできるのは私達自身です。それは決断です。私達が決断して立ち上がった時にはじめて神様は私達の手を引き上げて私達の人生を変えるのです。神様は絶えず「どうなりたいか？」と聞かれています。「良くなりたい！」と私達は願わなければいけません。

■ 3 判断を神様に聞く (イザヤ 30 : 21-26)

神様が蒔いた種に私達が水をやるようにとは書いていません。蒔く種を備えられるのは神様で種を蒔くのは私達です。相手から悪い態度を取られたのに私たちは相手に良いことをするのは確かに大変で辛いことです。けれど、これが「涙とともに種を蒔く」ということです。ザアカイのようにその相手が悪い態度を取るのには意味があります。だからこそ、神様がどのようにせよと言われているのかを聞くように神様はいつも語りかけておられます。自分の価値観で判断して処理していたら相手に届くことはできません。神様は細いところから誰にも聞こえないような小さな御声で語りかけます。だから、神様の声に絶えず耳を澄ましていなければなりません。今日ぜひ、神様に聞いて逃げずにつぶやかずに信じて歩む決断をしましょう。そして多くの命を生かす人生を選んでいきましょう！

(要約者: 全本 みどり)